

平成 28 年 3 月 13 日放送

富山教区 富山南組 覚性寺 福山祐介

皆さん、おはようございます。浄土真宗本願寺派覚性寺の福山祐介と申します。どうぞ宜しくお願い致します。

私たち浄土真宗のご本尊は阿弥陀さまです。

阿弥陀さまはいつでも、どこでも、誰にでも届いて下さる仏さま。決して私を一人にはさせないとおはたらき下さっている仏さまです。そして、悩み苦しみから逃れることの出来ないこの私を、救わずにはおれないと「南無阿弥陀仏」の声の仏さまとなって現れて下さいました。この「南無阿弥陀仏」には、阿弥陀さまが建立された仏さまの世界。「お浄土」に生まれてきてくれよという願いが込められています。多くの方は「お浄土」という言葉を聞きますと、「死後の世界」というイメージを持たれます。ですから、元気な内には必要ない、生きている私には関係ない世界のことだと考えてしまいます。

ですが、「お浄土」とは、終わっていくだけの悲しい世界ではありません。私の命の還る(かえ)世界であると同時に、いま命を頂く私の確かな「拠り所」でもあるのです。

今年、東北震災から五年目を迎えました。多くの人命が失われ、未だに行方不明となっておられる方も少なくありません。遺された方々は今も、家族や友人といった大切な人を失った悲しみを抱えながら、過ごしておられることでしょう。そして、失われたのは命だけではありません。

津波で家を流された人や、思い出の詰まった品を失ったという人もおられます。そうした方々の中には、やむをえず故郷を離れなければならなくなった人もおられるでしょう。福島県では、自宅が特別避難区域に指定され、「いつ故郷に帰れるのだろうか。」「もう生まれ育った町には帰れないかもしれない」と不安な日々を送っておられる方が大勢いるのです。

現在も約二十三万四千人の方が避難生活を送っておられます。これは日本だけの話ではありません。世界に目を向けてみますと、争いや貧困といった様々な理由で、やむなく国を出なければならなくなった人が大勢おられます。そうした人々は、向かった先の国にも阻まれ、国に帰ることも出来ず、進むことも出来ないまま、難民となって困難な状況に陥っているのです。

私たちは国や故郷を大切に思っています。それは私が心のどこかで、その土地や人に育ててもらったと思っているからではないでしょうか。ですから、それまで平穏に暮していた場所を失うのは辛いことです。それが長年生活してきた場所であればあるほど、悲しみは大きくなります。

私はこうした出来事や国際情勢を聞くまで、国や故郷というのは、あって当たり前場所。安心できる場所だと思っていました。それはきっと、そこに家族がいるから。友人がいるから。そして、そうした人たちが迎えてくれる大切な場所だと感じていたからだと思います。

ですが、故郷があるから安心できるのでしょうか。家族がいるからその中に拠り所が生まれるのでしょうか。

私は以前、県外に出て一人暮らしをしていたことがあります。一人暮らしをしていますと、何でも好きなことが出来るという開放感から、自分の事だけ考えて生活をするようになりました。それは自分でお金を稼ぐようになりますと、より顕著に表れました。そうして家族と離れて暮らしていると、実家にいる親からよく、食料品の送りや「元気にしてるか」という連絡をもらうことができました。でも、私はそういったことが段々と煩わしくなり「そんなに話をすることも無いし、荷物を受け取るのも面倒だから」と母親に言ったことがあります。すると母は「あんたは中々帰ってこないんだから、それくらいさせてよ」と言うのです。私はその母の言葉の中に、自分の事をいつも心配し、気に掛けてくれている母の想いが見えた気がしました。こうした親の姿は阿弥陀さまのお心に通ずるところがあります。

普段は気にも留めない、煩わしく思ってしまうこともある私であります。それでも放っておくことが出来ないと、いつも私の事を心配し、気に掛けてくれている親がいる。そのように気付かされた時、嬉しさと同時に「一人ではない」「見ていてくれる人がいる」という心強さが私の中から湧き上がるのを感じたのです。

私たちにとって国や町は家族や友人のいる大切な場所です。ですが、そこに「拠り所」となる安心が生まれるのは、故郷のある場所やそこにいる大切な人の存在があるからではありません。

私の事を、自分の事のように心配し、元気でいてほしいと願ってくれている人の「想い」が私に掛けられ、届いていると知らされたからこそ、そこに安心が生まれ「拠り所」となっていくのだと思うのです。

阿弥陀さまが、この私を目当てとされて「お浄土」を建立して下さいした意味は、まさにここにあるのではないのでしょうか。

私は眼に映るものはすべて確かだと思って生活しています。大切な人がいつまでも元気で居てくれる。平穏な日常が続くものだと気付かぬ内に考えてしまっています。しかし、紛争や天災によって目まぐるしく変わる世界の中で、確かだと思っていることが、崩れ去ったとき、私の中に不安が生まれます。

そんな、いつ何が起こるか分からない世界で、不安を抱えて生きている私に「決して一人にはさせない仏がここにいるぞ。」「必ず救い摂(と)るからな」と「南無阿弥陀仏」の声の仏さまとなって現れて下さったのが阿弥陀さまなのです。

私たちはそのお姿に、子を想う親の姿を重ねて、阿弥陀さまを「親さま」とお呼びすることがあります。

常にこの私を想って、おはたらき下さっている阿弥陀さまが、私の為にご用意下さった「お浄土」という世界は、私の命が還る世界というだけではありません。何があっても私を裏切ることのない、確かな「拠り所」なのです。

どんな私であっても見放す事無く、必ず受け入れてくれる世界がある。そう知らされた時、いま命を頂いている私の中に「安心」が芽生えてきます。

この不確かな世界で、阿弥陀さまから確かな「拠り所」を頂いている私は、安心の中に、心強く一日一日を過ごしています。

それはまさしく阿弥陀さまに支えられて歩ませて頂く人生なのです。